

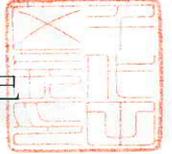


回 答 書

宮下 朋子 様

千代田区長

石川 雅己



千代田区 教育委員会教育長

山崎 芳明



日頃から教育行政にご理解ご協力を賜りありがとうございます。
さて、平成24年8月3日付で頂いた要望書については、下記のとおり回答いたします。

千代田区は、給食に関する保護者の不安を解消するために、現在は区立保育園等・区立学校等の食材の産地公表を毎日行っております。

また2ヶ月に1回程度調理済みの給食の放射性ヨウ素及び放射性セシウムの検査を実施しております。5週にわたり、区立小学校・中学校・中等教育学校、区立保育園・こども園、私立保育園、認証保育園などを5グループにわけ、毎週順番に、提供された給食の完成品（調理済み給食）及び牛乳1週間分をそれぞれ1検体として、放射性ヨウ素及び放射性セシウムの検査を9月実施から検出限界を1ベクレル/kgとして実施しております。その結果、現状としては不検出となっております。

千代田区としては、保護者の方々の放射能に対するご心配を可能な限り取り除くため、今後も、継続的に放射能濃度測定の検査を実施していく考えであります。

記

要望書1について

給食の放射能濃度測定の検出限界値については1ベクレル/kgとして実施していきます。

要望書2と3について

単品検査につきましては、今後必要があれば検討していきます。

現状といたしましては、学校給食の調味料、乾物等は、公益財団法人 学校給食会から納品しております。また平成23年3月11日以降、国内で採取された原料を使った製品につきましては、ホームページに掲載された検査結果（下限値：<10 ベクレル/kg）で確認しています。

また、園給食の調味料、乾物等は、できる限り製造会社に問い合せて、産地等を確認しています。例えば、麦茶については、材料の大麦はカナダ産（平成23年度収穫）であることを確認しています。

干し椎茸については、園のスープ等に1gを使用しております。検出の放射能濃度測定値（ベクレル/kg）に1g/1000を掛けると、その日の干し椎茸を摂取することによる放射能濃度となります。園の献立については今後、頻度等考慮していきます。

今後も新しく収穫があったものについて確認をしていくこと、また必要があれば単品検査についても検討していきます。

合わせて要望書3についても、必要以上に検出された場合には、頻度や使用量を考慮するなど検討していきます。

要望書4

- (1) 放射性物質検査機器の購入と区民の利用を可能にすること

家庭にある食材の放射能が測定できれば、区民にとってより一層安心できることから、区民の方が持ち込まれた食材について、保健所において放射能濃度測定器による測定を行う準備をしています。

- (2) 汚染された国産小麦を給食のパン等へ使わないこと。

現在、学校給食・園の給食のパンについては、国産小麦ではなく、原料の小麦はカナダ、アメリカ産を使用しております。

- (3) 保育園で提供される麦茶の検査についても実施すること。

現在、麦茶については、材料の大麦はカナダ産であり、国産で使用のものも、震災以前のものであることをメーカーに確認しており、現状としては放射能濃度測定の必要はないと考えております。

- (4) 保育園によりお弁当の持参の周知の有無等、対応が異なるので、全園において対応を同じにすること。

給食の安全性については十分確認をしているため、お弁当の持参につ

いては、園運営に支障がない限りにおいて、例外として認めております。このため、保育園・こども園の規模、設備、アレルギー食数等によって、各園での対応は異なりますので、ご理解ください。

(5) ストロンチウム90等の人工核種の測定を実施すること

土壌に蓄積したり、降下物、食品等に含まれるストロンチウム90の量は、セシウム137に比べるとかなり低いことが確認されております。ストロンチウム90は、給食などの放射能を精密に測定するゲルマニウム半導体検出器でも測定することができず、検査日数もかかるため、実施している検査機関が限られています。また、セシウムに比べると、事故前後での検出レベル差は小幅に留まっています。

給食の検査で、セシウム137の検出下限(5Bq/kg)未満の結果が続いている現状において、ストロンチウム90を検査することの意味は薄いと思われます。

今後も、給食の検査結果と、ストロンチウム90等の半減期の長い放射性核種の状況を注視していきます。